



アニメ・マンガの祭典 Anime NYC

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 高橋 真理 (茨城県境町派遣)

3日間で5万5,000人が来場

2022年11月18日から20日にかけて、ニューヨーク市のジャビッツ・コンベンションセンターでアニメ・マンガの祭典である Anime NYC が開催され、3日間の合計で昨年を上回る約5万5,000人のアニメ・マンガファンが来場しました。

Anime NYC は、LeftField Media が主催する日本のポップカルチャーをテーマにしたイベントで、アニメ関連企業などによるブース展示やグッズ販売のほか、パネルディスカッションやステージでのライブパフォーマンス、声優との握手・サイン会などが行われます。今回は新型コロナウイルス感染症による渡航制限が緩和されたこともあり、2021年と比べると日本からの参加企業やゲストが大幅に増加しました。日本企業だけで約200社、全体で約600社が出展し、各ブースは来場者でにぎわっていました。



会場の様子

会場にはコスプレをした来場者も多く、ワンピースや NARUTO、進撃の巨人、ポケモンなどの人気作品のほか、日本でテレビ放送が始まったばかりの作品のコスプレイヤーも目立ち、当地のアニメファンがリアルタイム

で日本の最新作品を追いかけており、トレンドは日本とほとんど変わらないと感じました。



完成度の高いコスプレをする来場者

アニメツーリズムを PR

クレーニューヨーク事務所は、2019年から本イベントに参加しており、今回で3回目のブース出展（2020年は新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント中止）となります。クレーブースでは各自治体のパンフレットやポスター、動画のほか、(一社)アニメツーリズム協会より提供いただいたアニメ聖地巡礼マップを用いて、アニメ・マンガなどを活用した地域振興に取り組む自治体の観光 PR を行いました。



各自治体のパンフレット

来場者へアニメ・マンガの舞台となっている地域を巡るアニメツーリズムについて説明をすると、「作品の舞台になっている地域へ行ってみたい」「アニメ・マンガを活用した自治体パンフレットはとても魅力的」「大好きなマンガの作者の出身地を訪れたい」「日本に行ったら『聖地巡礼』をしてみたい」といった声が聞かれ、大きな手ごたえを感じました。

2022年は、日本への渡航制限が緩和されたことにより、訪日旅行（おおむね2月～8月頃）を計画中の来場者が多い印象でした。ブースでパンフレットを手に取りながら具体的な旅行計画について当事務所職員に相談する姿も見られました。訪日予定者の多くは旅行期間が10日から2週間程度、訪問地は5か所前後と考えているものの、中には東京、大阪または京都以外の訪問先は未定という人もいました。このため、その他の候補地として、アニメ・マンガ作品とコラボをしている地域や滞在目的に合った地域を紹介し、観光名所や特産品、空港からのアクセス方法などについても案内しました。



おすすめの訪問先を尋ねる来場者

アンケート結果と来場者の声

クレーブスでは観光PRと同時に来場者にアンケート調査を行い、約200件の回答を得ました。年齢層は20代・30代が全体の約7割を占めていました。日本を訪れたことがある方は全体の2割強と少ないものの、そのうち6割が2回以上日本を訪れているという結果となっており、再訪客が多い傾向も見られました。クレーブスの満足度は「非常に高い・高い」が9割を超える

結果となり、「地方の観光地の情報が載っているパンフレットが欲しかった」「旅行に行く前に日本の情報を知ることができて良かった」とのコメントがありました。今回のアンケート結果の詳細は、参加自治体へフィードバックを行う予定です。

また、作品にこだわらずアニメ・マンガ全般が好きな来場者も多く、地域をPRするオリジナルマンガが好評だったほか、ご当地キャラも「カワイイ！」と人気を集めていました。



自治体のノベルティグッズも人気

北米圏におけるプロモーション

クレーニューヨーク事務所では、北米圏における自治体の経済活動の支援として、イベントへのブース出展を行っています。今回出展したAnime NYCは日本への興味、関心が高い来場者が多く、プロモーションの効果が特に期待できるイベントの1つです。これからも引き続き、こうした機会をとらえて現地のニーズ把握や効果的なPRを行ってまいります。北米圏での活動を検討される際には、ぜひクレーニューヨーク事務所にご相談ください。



クレーブスの様子